

特別企画

SDGsの実現に向けて 総合型クラブにできること

現在、日本でも話題の一つとなっているのが「持続可能な開発目標(SDGs)」です。企業や個人でもすでに取り組みを行っているところが多いのではないのでしょうか。スポーツがSDGsに貢献できることは多く、国では地域や自治体の取組に大きな期待が寄せられています。

そこで今回は、SDGsの実現に向けて総合型クラブができることについて、岡山理科大学の林恒宏准教授より情報提供いただきます。

★SDGs(Sustainable Development Goals)とは

2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地域上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものです。(外務省HP: JAPAN SDGs Action Platformより抜粋)



1 スポーツSDGsとは

1.1 スポーツSDGsの定義

スポーツSDGsとは「スポーツ+SDGs」ですが、「+」の部分の解釈には、いくつか考えられます。ここでは筆者の二つの解釈を解説いたします。SDGs of SportとSDGs through Sportの二つです。一つ目の「SDGs of Sport」は、スポーツ組織やスポーツ活動自体のSDGs活動です。例えばスポーツ協会や競技団体、総合型クラブが取り組むSDGs活動であり、大会やイベントなどスポーツ活動自体によるSDGs活動です。二つ目の「SDGs through Sport」はスポーツとは直接関係のない組織が、スポーツ組織やスポーツ活動を通して行うSDGs活動です。例えばアパレル系のブランド企業が、スポーツ競技団体が行うスポーツ教室などの子どもたちの健全育成事業にスポンサーするなどです。

このように「主語が誰か？」によってスポーツSDGsの定義が異なります。

1.2 国際連合によるスポーツとSDGsに関する説明

国際連合(以下、「国連」という。)は広報センターのオフィシャルサイトにてスポーツとSDGsの関係について以下のように述べています。

スポーツは、平和と開発の目標達成に向けて前進するための費用効果的で柔軟なツールとなることが判明しています。2000年のMDGs※1発足以来、スポーツは8つの目標それぞれを強化するうえで、死活的に重要な役割を果たしてきましたが、この事実は、数多くの総会決議でも認識されました。スポーツが社会の進歩に果たす役割は、持続可能な開発のための2030アジェンダ宣言でも、次のように認識されています。

「スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。我々は、スポーツが寛容性と尊厳を促進することによる、開発および平和への寄与、また、健康、教育、社会包摂的目標への貢献と同様、女性や若者、個人やコミュニティの能力強化に寄与することを認識する。」

このように国連は、MDGsの流れを引き継ぐSDGsの17項目それぞれの達成に向けた課題に取り組む潜在的能力を備えた重要かつ強力なツールとして、スポーツがその役割を果たすことを期待しています。詳細は国際連合広報センターサイトをご覧ください。

<国際連合広報センターオフィシャルサイト>

https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/18389/

※1 ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)は、開発分野における国際社会共通の目標で、2000年9月にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言を基にまとめられました。MDGsは、極度の貧困と飢餓の撲滅など、2015年までに達成すべき8つの目標を掲げ、達成期限となる2015年までに一定の成果をあげました。その内容は後継となる持続可能な開発のための2030アジェンダ(2030アジェンダ)に引きつがれています。

1.3 スポーツSDGsと総合型クラブ

SDGsの実現に向けたスポーツへの期待については、これまで述べてきました。SDGsは国連サミットで定められた国際目標であることから国際協力や国際交流など国境を越えた取り組みが主であるかのように捉えられがちですが、そうではありません。我が国の国内においてもSDGsの17のゴールで解決すべき課題は多くあります。例えばゴール1「貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」では、「ワーキングプアや国内の7人に1人の子どもが貧困状態にあるといわれている」-などがあります。このように17のゴールは決して国際的な課題ではなく、我々の生活圏にも同様の課題が溢れています。これらの課題解決にスポーツが、また、総合型クラブがどのような役割を果たせるかが期待されているのです。

2 総合型クラブとSDGs

総合型クラブがSDGsに取り組むにはいくつかの方法があります。まずは総合型クラブの活動としては①スクール事業②サークル事業③イベント事業④その他の活動⑤クラブ運営(会議、事務局)などが挙げられます。これらの活動それぞれとSDGsのどのゴールとを結びつけるかを検討する必要があります。

例えば、クラブで行う子どもたち向けのサッカースクールですと、SDGsのゴールの内、目標3「すべての人に健康と福祉を」や目標4「質の高い教育をみんなに」などが関係してきます。また、女性のスポーツ機会を創出するためのイベントの場合ですと目標5「ジェンダー平等を実現しよう」が関係します。クラブの活動がどのSDGsのゴールと関係するのかを会員でディスカッションすることなどもSDGsへの理解を深める意味でも有効でしょう。

また、クラブとしてあえてSDGsに向けた活動を立ち上げようとするのではなく、既存の活動がすでにSDGsに向けた取り組みになっていることが多いと思われます。

3 総合型クラブがSDGsに取り組む意義

総合型クラブがSDGsに取り組む意義について二つ提案いたします。①価値の共通言語化(価値の見える化)②CSVの考え方です。①については、これまでの総合型クラブを含むスポーツ界は自分たちが取り組む活動の意義(価値)について様々発信してきました。子どもたちの健全育成や健康寿命の延伸、生きがいづくり、交流などでしょう。これらの活動の意義を、行政や企業、地域住民に理解してもらいやすくするためにも、社会に浸透してきたSDGsという切り口で自らが取り組む活動の価値を発信することができれば、協力や協賛を得やすくなります。総合型クラブが施設や資金など経営資源の調達をする意味でも、また、地域住民にクラブの存在意義を理解してもらいやすくなるためにも有効でしょう。

②についてはCSV(Creating Shared Value)という考え方に基づく取り組みです。SDGsの17のゴールは社会課題を示したものですが、それと同時にその社会課題を解決してほしいという「ニーズ」を示したものでもあります。この「ニーズ」を総合型クラブのみで解決しようとするのではなく、同じゴール解決を掲げる行政や企業、他の組織と連携して一緒にそのニーズにこたえていくサービスや商品などの価値を創出(共創)していくことをCSVといいます。Jリーグが取り組む「シャレン！(社会連携活動)」がその代表です。総合型クラブの活動にSDGsが組み込まれることで、ステークホルダー(利害関係者)との関係も深まり、より多くの価値を創出していくことにつながります。

①②以外にも、社会関係資本の創出などによる住みやすい街づくりへの貢献など様々な波及効果が考えられます。

<Jリーグ「シャレン！」オフィシャルサイト>

<https://www.jleague.jp/sharen/>

4 総合型クラブが取り組むSDGs(事例)

SDGsに取り組む総合型クラブの事例として、北海道のユルっとゆうばりスポーツクラブは、環境保全のため年に2回スウェーデン発祥のプロギング(ランニング & ゴミ拾い活動)を行っています。また、富山県の一般社団法人常願寺川公園スポーツクラブは、環境保全活動として古紙回収、環境美化、森林保全活動を実施しています。

この事例以外にも、すでに多くのクラブでSDGsに向けた取り組みを行っていると思われます。クラブとしてすでに行っている活動をSDGsという切り口(共通言語)で発信し、行政や企業、地域住民をさらに巻き込んで地域の課題解決が促進することにつながることを願ってやみません。

PLOGGING CHALLENGE IN YUBARI
 体を動かして健康に コミを拾って環境美化へ
 令和3年10月23日(土) 開催
 10:30~12:00(集合10:00) 雨天中止
 eco bag

プロギングとは
 スウェーデンで誕生したXTRILスポーツと「Plocha Upp (拾う)」を合わせた造語である。内容はいたってシンプル。ゴミ袋を持って走り、ゴミを見つけたら拾うだけ。ゴミの重さで前トレ・エクササイズ効果があり、環境にもやさしくまろもきれいなびきる取り組みである。

集合場所 ゆばり文化スポーツセンター	参加費 無料
参加条件 ①ランニングの部 不特定な区域 夕陽斜まで往復約6km 定員人数 50名 ②ウォーキングの部 ごみ拾い区域 常願寺川公園地区周辺コース約4km 定員人数 50名 ※ランニングは参加者全員が離れずについているペースで行います。ウォーキングはマルチタックボールを持っての参加が可能です。	持ち物 ●動きやすく暖かい服装 ●替替え ●軍手 ●ゴミ袋 ●飲み物 ●マスク
参加特典 エコバック(ゴミ拾い用) 申込締切 10月6日(日)	注意事項 ①当日は体温・健康状態の確認を行います。 ②ゴミは軍手やグングを使って拾うこと。 ③一袋の重さを確認しながら行うこと。 ※ランニングは必ず着用してください。また、ランニングシューズは必ず履いてください。 ※当日体調がすぐれない方は、参加をご遠慮ください。
	問合せ ゆばり文化スポーツセンター 電話：56-6046 中島

プロギング チラシ
(ユルっとゆうばりスポーツクラブ)



古紙回収(常願寺川公園スポーツクラブ)

引用参考文献

神谷和義・林恒宏編著(2020)「スポーツSDGs概論」(学術研究出版)

国際連合広報センターオフィシャルサイト,

https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/18389/

(2023年3月3日閲覧)

Jリーグ「シャレン！」オフィシャルサイト

<https://www.jleague.jp/sharen/>

(2023年3月3日閲覧)

林恒宏(はやし つねひろ)

岡山理科大学経営学部准教授。

静岡大学卒業後、(財)静岡県サッカー協会、NPO法人ピュアスポーツクラブ理事兼事務局長、埼玉県広域スポーツセンター専任指導員、(財)埼玉県体育協会クラブ育成アドバイザー、浦和レッズ、札幌国際大学、大阪成蹊大学、大正大学を経て、2022年度より現職。博士(創造都市)。近著に「スポーツSDGs概論」(2020)がある。



SDGsに関する過去の記事

・NPO法人見附市総合型地域スポーツクラブ

https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R3/MM156_mitsuke.PDF

・熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R3/MM156_scs.PDF